

デーヴォ ガイド



2022.1.31-2.6

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでもいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



8:40 さて、イエスが帰られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたからである。

8:41 するとそこに、ヤイロという人が来た。この人は会堂管理者であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して自分の家に来ていただきたいと願った。

8:42 彼には十二歳ぐらいのひとり娘がいて、死にかけていたのである。イエスがお出かけになると、群衆がみもとに押し迫って来た。

8:43 ときに、十二年の間長血をわずらった女がいた。だれにも直してもらえなかったこの女は、

8:44 イエスのうしろに近寄って、イエスの着物のふさにさわった。すると、たちどころに出血が止まった。

8:45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか。」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。この大ぜいの人が、ひしめき合って押ししているので。」と言った。

8:46 しかし、イエスは、「だれかが、わたしにさわったのです。わたしから力が出て行くのを感じたのだから。」と言われた。

8:47 女は、隠しきれないと知って、震えながら進み出て、御前にひれ伏し、すべての民の前で、イエスにさわったわけと、たちどころにいやされた次第とを話した。

8:48 そこで、イエスは彼女に言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行きなさい。」

8:49 イエスがまだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人が来て言った。「あな

たのお嬢さんはなくなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」

8:50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は直ります。」

8:51 イエスは家にはいられたが、ペテロとヨハネとヤコブ、それに子どもの父と母のほかは、だれもいっしょにはいることをお許しにならなかった。

8:52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてもよい。死んだのではない。眠っているのです。」

8:53 人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑っていた。

8:54 しかしイエスは、娘の手を取って、叫んで言われた。「子どもよ。起きなさい。」

8:55 すると、娘の霊が戻って、娘はただちに起き上がった。それでイエスは、娘に食事をさせるように言いつけられた。

8:56 両親がひどく驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

癒しやよみがえりのわざをさなるイエス様は驚くべきお方ですが、しかしそのような奇跡をいただいた人も、やがてはまた死んでしまいます。何よりイエス様のわざで素晴らしいのは、永遠の命を与えてくださることです。

私たちクリスチャンは、このような根本的な永遠の解決が与えられていることに感謝しましょう。その上で、この世のことも、すなわち癒しなども求めましょう。すでに救われているのですから、安心と信頼で求めましょう。

もしもイエス様が遅くなって、この12歳の娘の

ように手遅れのように感じるようなことがあっても、そこには深い主のみこころがあるはずです。信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 火曜

ルカ



9:1 イエスは、十二人を呼び集めて、彼らに、すべての悪霊を追い出し、病気を直すための、力と權威とをお授けになった。

9:2 それから、神の国を宣べ伝え、病気を直すために、彼らを遣わされた。

9:3 イエスは、こう言われた。「旅のために何も持って行かないようにしなさい。杖も、袋も、パンも、金も。また下着も、二枚は、いりません。

9:4 どんな家にはいっても、そこにとどまり、そこから次の旅に出かけなさい。

9:5 人々があなたがたを受け入れないばあいは、その町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落としなさい。」

9:6 十二人は出かけて行って、村から村へと回りながら、至る所で福音を宣べ伝え、病気を直した。

9:7 さて、国主ヘロデは、このすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。それは、ある人々が、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。」と言い、

9:8 ほかに人々は、「エリヤが現われたのだ。」と言い、さらに別の人々は、「昔の預言者のひとりによみがえったのだ。」と言っていたからである。

9:9 ヘロデは言った。「ヨハネなら、私が首をはねたのだ。そうしたことがうわさされているこの人は、いったいだれなのだろう。」ヘロデはイエスに会ってみようとした。

9:10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちのして来たことを報告した。それからイエスは彼らを連れてベツサイダという町へひそ

かに退かれた。

9:11 ところが、多くの群衆がこれを知って、ついて来た。それで、イエスは喜んで彼らを迎え、神の国のことを話し、また、いやしの必要な人たちをおいやしになった。

9:12 そのうち、日も暮れ始めたので、十二人はみもとに来て、「この群衆を解散させてください。そして回りの村や部落にやって、宿をとらせ、何か食べることができるようにさせてください。私たちは、こんな人里離れた所にいるのですから。」と言った。

9:13 しかしイエスは、彼らに言われた。「あなたがたで、何か食べる物を上げなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚のほか何もありません。私たちが出かけて行って、この民全体のために食物を買うのでしょうか。」

9:14 それは、男だけでおおよそ五千人もいたからである。しかしイエスは、弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にしてすわらせなさい。」

9:15 弟子たちは、そのようにして、全部をすわらせた。

9:16 それとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福して裂き、群衆に配るように弟子たちに与えられた。

9:17 人々はみな、食べて満腹した。そして、余ったパン切れを取り集めると、十二かごあった。

私たちは救われた後も地上に留まっていますが、それはまだ救われていない人に、福音をのべ伝えるためです。ここにはそのための大切な事柄が述

べられています。

救われた者には權威が与えられています。祈り主が聞いてくださるということです。未信者のためにも、祈るなら主は聞いてくださいます。祈りに人の心は開かれるでしょう。救いのためには私たちの持ち物は不要です。もちろん人に届くためには、様々な趣味なども有効ですが、それはあくまでも過程です。福音を伝えるときには、物は要りません。イエス様が弟子たちを素手で遣わしたのは、物ではなく主御自身に頼らせるためです。

人々が受け入れないばあいは、いつまでもその人に固執しないで、次の人に行くべきです。もちろんまた戻ってくるのもいいでしょうが、福音を必要としている人はたくさんいるのです。1人の人とだけ関わっているのは、他の人の救いのチャンスを逃してしまいます。

パンは主が増やして、弟子が与えます。主のみわざはそのようなもので、私たちこそが与える働き人です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 水曜

ルカ



9:18 さて、イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちがいっしょにいた。イエスは彼らに尋ねて言われた。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」

9:19 彼らは、答えて言った。「パプテスマのヨハネだと言っています。ある者はエリヤだと言い、またほかの人々は、昔の預言者のひとりが生き返ったのだとも言っています。」

9:20 イエスは、彼らに言われた。「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えて言った。「神のキリストです。」

9:21 するとイエスは、このことをだれにも話さないようにと、彼らを戒めて命じられた。

9:22 そして言われた。「人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえらねばならないのです。」

9:23 イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

9:24 自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。

9:25 人は、たとい全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません。

9:26 もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いと的光荣を帯びて来るときには、そのような人のことを恥とします。

9:27 しかし、わたしは真実をあなたがたに告

げます。ここに立っている人々の中には、神の国を見るまでは、決して死を味わわない者たちがいます。」

9:28 これらの教えがあつてから八日ほどして、イエスは、ペテロとヨハネとヤコブとを連れて、祈るために、山に登られた。

9:29 祈っておられると、御顔の様子が変わり、御衣は白く光り輝いた。

9:30 しかも、ふたりの人がイエスと話し合っているのではないか。それはモーセとエリヤであつて、

9:31 栄光のうちに現われて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである。

9:32 ペテロと仲間たちは、眠くてたまらなかつたが、はっきり目がさめると、イエスの栄光と、イエスといっしょに立っているふたりの人を見た。

9:33 それから、ふたりがイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。

「先生。ここにいることは、すばらしいことです。私たちが三つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」ペテロは何を言うべきかを知らなかつたのである。

9:34 彼がこう言っているうちに、雲がわき起こってその人々をおおった。彼らが雲に包まれると、弟子たちは恐ろしくなった。

9:35 すると雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしの選んだ者である。彼の言うことを聞きなさい。」と言う声がした。

9:36 この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであつた。彼らは沈黙を守り、その当時は、自分たちの見たこのことを

いっさい、だれにも話さなかつた。

イエス様について行く、信仰の生涯は苦しみもあります。しかしそれは命を得るすばらしい生涯です。自分の十字架を負いましょう。天国で主にほめられる者となりましょう。

イエス様はすばらしい栄光を表わしなさいました。いつまでもそこにいたい気持ちですが、地上では悪霊のしわざがありました。イエス様がこの世の人々の現実にご答えてくださる方であることに期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 木曜

ルカ



9:37 次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの人の群れがイエスを迎えた。

9:38 すると、群衆の中から、ひとりの人が叫んで言った。「先生。お願いします。息子を見てやってください。ひとり息子です。」

9:39 ご覧ください。霊がこの子に取りつきますと、突然叫び出すのです。そしてひきつけさせてあわを吹かせ、かき裂いて、なかなか離れようとしません。

9:40 お弟子たちに、この霊を追い出してください。さるようお願いしたのですが、お弟子たちにはできませんでした。」

9:41 イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまで、あなたがたといっしょにいて、あなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。あなたの子をここに連れて来なさい。」

9:42 その子が近づいて来る間にも、悪霊は彼を打ち倒して、激しくひきつけさせてしまった。それで、イエスは汚れた霊をしかって、その子をいやし、父親に渡された。

9:43 人々はみな、神のご威光に驚嘆した。イエスのなさったすべてのことに、人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。

9:44 「このことばを、しっかりと耳に入れておきなさい。人の子は、いまに人々の手に渡されます。」

9:45 しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。このみことばの意味は、わからないように、彼らから隠されていたのである。また彼らは、このみことばについてイエスに尋ねるのを恐れた。

9:46 さて、弟子たちの間に、自分たちの中で、だれが一番偉いかという議論が持ち上がった。

9:47 しかしイエスは、彼らの心の中での考えを知っておられて、ひとりの子どもの手を取り、自分のそばに立たせ、

9:48 彼らに言われた。「だれでも、このような子どもを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れる者です。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れる者です。あなたがたすべての中で一番小さい者が一番偉いのです。」

9:49 ヨハネが答えて言った。「先生。私たちは、先生の名を唱えて悪霊を追い出している者を見ましたが、やめさせました。私たちの仲間ではないので、やめさせたのです。」

9:50 しかしイエスは、彼に言われた。「やめさせることはありません。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方です。」

イエス様は栄光を表した山から下りられました。イエス様は御自身の栄光よりも人類の救いを選ばれて、救いを成し遂げられたのです。今も働かれるイエス様に期待しましょう。

偉くなって人の上に立ちたい…という思いは争いと敗者を作ります。クリスチャンはそのような価値観から自由になった者で、もしも指導者になったとしても、極めて謙遜であることができるのです。イエス様はそのことを弟子たちに教えました。常に謙遜でありましょう。

同じように「自分たちの仲間」かどうか、小さなことです。他のグループとの覇権争いはみこころに反するものです。特にイエス様の名を唱えてその働きをする者同士は、互いに尊重して協力

し合うべきです。同じ教会のクリスチャン同士もそうです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 金曜

ルカ



9:51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、

9:52 ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリヤ人の町にはいり、イエスのために準備した。

9:53 しかし、イエスは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリヤ人はイエスを受け入れなかった。

9:54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

9:55 しかし、イエスは振り向いて、彼らを戒められた。

9:56 そして一行は別の村に行った。

9:57 さて、彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「私はあなたのおいでのなる所なら、どこにでもついて行きます。」

9:58 すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所也没有ありません。」

9:59 イエスは別のの人に、こう言われた。「わたしについて来なさい。」しかしその人は言った。「まず行って、私の父を葬ることを許してください。」

9:60 すると彼に言われた。「死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

9:61 別の人はこう言った。「主よ。あなたに従います。ただその前に、家の者にいとまごいに帰らせてください。」

9:62 するとイエスは彼に言われた。「だれで

も、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくありません。」

ヤコブとヨハネは主のことを思い、また信仰に働く主の力を信じていました。しかし、その動機は人間的な感情でした。信仰に篤い人も、そういうところがないか、自省してみることも必要でしょう。

「人々の手に渡される」苦難のイエス様こそ、私たちの力であり誇りです。このイエス様とともに苦難をも恐れず、勝利の確信で未来に進みましよう。

イエス様は、これから十字架にかかる場所であるエルサレムに顔を向けて、強い決意で進んでおられました。主に従いますといいながら、すぐに行動しようとしないう人々に対して、イエス様は、それらの言い訳を見抜いておられます。私たちのことばも言い訳になっていないか、吟味してみましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 土曜

ルカ

10:1 その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりすべての町や村へ、ふたらずつ先にお遣わしになった。

10:2 そして、彼らに言われた。「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。

10:3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り出すようなものです。

10:4 財布も旅行袋も持たず、くつもはかずに行きなさい。だれにも、道であいさつしてはいけません。

10:5 どんな家にはいっても、まず、『この家に平安があるように。』と言いなさい。

10:6 もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、その人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに返って来ます。

10:7 その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

10:8 どの町にはいっても、あなたがたを受け入れてくれたら、出される物を食べなさい。

10:9 そして、その町の病人を直し、彼らに、『神の国が、あなたがたに近づいた。』と言いなさい。

10:10 しかし、町にはいっても、人々があなたがたを受け入れないならば、大通りに出て、こう言いなさい。

10:11 『私たちは足についたこの町のちりも、あなたがたにぬぐい捨てて行きます。しかし、



神の国が近づいたことは承知していません。』

10:12 あなたがたに言うが、その日には、その町よりもソドムのほうがまだ罰が軽いのです。

10:13 ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちの間に起こった力あるわざが、もしもツロとシドンでなされたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰の中にすわって、悔い改めていただろう。

10:14 しかし、さばきの日には、そのツロとシドンのほうが、まだおまえたちより罰が軽いのだ。

10:15 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスにまで落とされるのだ。

10:16 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾ける者であり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒む者です。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒む者です。』

ここに記されている派遣は、イエス様が行く前に遣わされるのですから、伝道であり、または伝道のための備えです。それは今の私たちの働きでもあります。ここに大切な原則があります。以下にみましよう。

収穫のための働き手を送ってくださるように祈る…私たちもそのために期待して祈りましよう。狼の中に小羊を送り出す…クリスチャンも弱い存在ですから、主の力に頼りましよう。〇〇も持たず…見えるものに頼るのではなく、主に頼りましよう。平安の子がいたら…福音を受け入れる備えができて人と出会うように祈りましよう。家から家へと渡り歩いてはいけません…それは楽しいものであるかもしれませんが、目的は救いで

すから、その人が拒否したときには次の人に行きます。優先順位が大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 日曜

ルカ

10:17 さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」

10:18 イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。」

10:19 確かに、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けたのです。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。

10:20 だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んでではありません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」

10:21 ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。」

10:22 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、子がだれであるかは、父のほかには知る者がありません。また父がだれであるかは、子と、子が父を知らせようと心に定めた人たちのほかは、だれも知る者がありません。」

10:23 それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたのしていることを見る目は幸いです。」

10:24 あなたがたに言いますが、多くの預言者や王たちがあなたがたのしていることを見たいと願ったのに、見られなかったのです。



また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかったのです。」

福音の宣教はサタンの妨げに勝利しつつ進みますから、宣教する者たちはサタンに対する権威を持っています。しかしこれらは神様からのものであって、人間が初めから持っているではありません。ですからサタンや悪霊に勝利したからといって自分の力のように「喜んで」ならないのです。

イエス様が言われるように、福音の奥義を知らせていただき、「これらのことを…現して」いただいたのは、この世の「賢い者や知恵のある者」ではなく、「幼子」のような者に対してであることを覚えましょう。

私たちは自分が知恵者だから救いにあずかったのではなく、また主のみわざを行っているのではないのです。ただ「幼子」のように素直であることは大切なことです。謙遜で素直な者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

